

心に響く「防災一人語り」



一人語りでさまざまな役を演じ分ける三咲順子さん
 平成24年11月、江戸川区

平成12年夏、三宅島が大噴火し、9月1日の全島避難決定から約13年がたつ。住民は徐々に島へ戻り、今も続く火山活動と向き合いながら生活の立て直しを進めている。この実話を基にした「一人語り」で、防災の心を広げようと全国各地を訪ねているチームがある。9月21日、その三宅島での初演が決まった。

「防災一人語り」。東村山 子権は島に実在する背の高い市に住む女優で演奏家の三咲 シイの木で、島民は迷子や待順子さん(42)が、1人で複数 ち合わせの時の目印にしている声色を使い分け、歌、ピアノなどの演奏を交えて演じる。語りは6作あり、最新作が「迷子権——三宅島大噴火——」だ。

噴火と島民の様子、全島避難時の家族の葛藤などが描かれ、主人公の女子高生が語る。「私たちはきつと島に帰る。島の人たちは、復興に励む。希望の光を信じ、大好きな三宅島で生きていく」。迷

三宅島での上演は昨秋以降、台風などで2度、延期に。三咲さんは「三宅島で上演することの意味を改めて感じる。東日本大震災の復興も始まったばかり。聴いてくださる方々の防災への意識が高まり、日頃の備えになれば。今後とも全国各地で活動を続けたい」。

脚本は劇作家、演出家で劇

全島避難決定から13年

来月21日 三咲順子さん、三宅島公演

団「巢林舎」(品川区)の代表、鈴木正光さん(68)。「迷子権が島民生活に不可欠な存在だと知った。自然は優しく、時に厳しい。その自然と私たちは共生していることを伝えたい」と語る。

三咲さんの日頃の公演を見て「防災一人語り」を思いつき、このチームを結びつけた加藤雅さん(59)。都内各地の消防署で勤めた。「平成17年、子供の火遊びと母子の絆をテーマにした第1作から、気がつけば6作になっていた(延べ約20回上演)。全国での公演を通じて、防災と「文化」というものは一体になって人々の心に種を植えることを知った」

◇ 三宅島公演は9月21日午後2時から、三宅島郷土資料館。ホームページは「文化と防災の合体」で検索。問い合わせは三宅村消防本部 ☎04994・6・0119。